彦根市埋蔵文化財調査報告　第21集

竹ケ鼻廃寺発掘調査報告書

平成３年３月

彦根市教育委員会

序

彦根市は、琵琶湖中央部湖東地域の中核都市として発展してまいりましたが、旧郡名で言いますと犬上郡を中心に坂田郡から愛知郡までの広がりを持ちます。これらの各地域は河川や街道、また、琵琶湖を中心とした湖上交通を通じて交流し、競いながらそれぞれの地域的なまとまりを形成してまいりました。

現在彦根市内では150ケ所以上の遺跡を確認しておりますが、古代の寺院跡は古瓦等の出土している遺跡が4ケ所だけで、調査は進んでいません。このため、彦根市内の古代寺院がどのような形態であったのかは不明であります。しかし当時の文化の最先端であった寺院が立地していたことは、福満遺跡を含むこの地域の一つの中心であった事が考えられます。

今回の調査では、寺院跡の遺構を直接確認することはできませんでしたが、多量の古瓦等の竹ケ鼻廃寺に関連する遺物の出土を見ています。また、この寺院を支えたであろう集落跡の遺構を検出いたしました。この資料が今後、この地域の歴史を考える上での一助になれば幸いです。

最後になりましたが、文化財保護の精神をご理解いただきまして竹ケ鼻廃寺の発掘調査に多大なご協力を得ました東レ建設株式会社をはじめとする関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成3年3月31日

彦根市教育委員会
教育長　和　田　豊　治

例　　言

1．本書は、平成２年度に実施した竹ケ鼻廃寺発掘調査事業の調査概要報告書である。

2．調査場所は、彦根市竹ヶ鼻町四反地252-1 他である。

3．調査は、東レ建設株式会社の依頼に基づき彦根市教育委員会が実施した。

4．本遺跡の発掘調査は以下の体制で実施した。

彦根市教育委員会	社会教育課長	高　橋　安　太
	同課長補佐	小　寺　　廣
	同文化財係長	日　夏　秀　喜
	同文化財係技師	本　田　修　平

5．現地の調査および整理作業には、原弥助、鈴木千代、大堤須美子、出口加寿夫・西村昭三・疋田千鶴子・古川久・松林愛子・北川正吉・中島容子・乾範子・西村幸子・伏木和子・大野優子の諸氏のほか、調査作業員を彦根市シルバー人材センターに委託して派遣いただいた。　記して感謝したい。

6．出土遺物等本調査の資料は、本市教育委員会で保管している。

なお、資料中の遺構実測図等で使用した北は、磁北である。

目　　次

1. はじめに ---------- 3

2. 調査結果 ---------- 4

3. まとめ ---------- 8

図版１　～　23 ---------- 9

1．はじめに

彦根市は、鈴鹿山系北端から流れ出す３本の川で、大きくは４つの地域に分けられる。すなわち、芹川以北・芹川と犬上川間・犬上川と宇曽川間・宇曽川以南の地域である。

竹ヶ鼻廃寺の所在する竹ヶ鼻町は、彦根市の中央部北側の芹川と犬上川の間の地域に属しており、竹ヶ鼻と言う地名が示す様に犬上川右岸に突き出した自然堤防状の微高地の地形をなしている。地理的に見れば、この事は非常に安定した地域であったことを示しており、水利的にも良いことから常に人々の生活の場になっていたことが考えられる。

竹ヶ鼻廃寺は、竹ヶ鼻の集落東側からＪＲ琵琶湖線を越えて都恵神社東側までを含む地域に瓦・須恵器等の散布を確認しているものである。この遺跡は、以前から古瓦が出土することで注目されているところで、その間の経緯を『彦根市史』によってまとめると「①瓦・土器・礎石が出土しており地元の人が所有している。②単弁蓮華文軒丸瓦・須恵器坏蓋等であり、寺院の創建年代としては白鳳時代が考えられる。③現水田下約50cmの所が瓦の包含層であると共に、小字の下寺街道では幅１ｍ程の粘土のかたまりが直線状に連なっており、基壇の残存したものと考えられること。」以上の３点にまとめられる。また、南彦根駅に取り付く市道工事時に都恵神社の南側を調査し、古墳時代から奈良時代にかけての竪穴住居跡を中心とする集落跡を検出しており、竹ヶ鼻廃寺をとりまく歴史的環境が徐々にではあるが明らかになりつつある。

今回の調査地域は、ＪＲ琵琶湖線と都恵神社に挟まれた地域で、以前から雑種地として建設廃材等の投棄場的な使用がなされていたが、南彦根駅の開業や道路整備等で居住条件が好適地になったため、今回の事前調査に至ったものである。次に調査の経過について記す。

平成２年頭初に、東レ建設株式会社よりマンションを建設する計画であることから、遺跡の有無についての照会があり、当該地は「彦根市史に記載がある様に瓦等の出土している竹ヶ鼻廃寺であり、文化財保護法に基づく手続きおよび調査が必要である。先ず、試掘調査を実施して地下遺構・包含層の有無の確認をしたい。」旨の協議をした。以上のことから、発掘届および調査依頼が 平成２年３月30日付けで 当教育委員会に提出された。当教育委員会では平成２年４月10日付け彦教委社第469 号の発掘届の進達 ならびに発掘調査通知を県教育委員会教育長宛で提出した。その後、協議に基づき平成２年４月12日に現地の試掘調査を実施した。試掘調査は、３ｍ×３ｍの試掘トレンチを10ヶ所設定したが、１ヶ所を除いて80cm～120cmの建設排土の盛り土層・30cmの旧耕作土層の下で20～30cm

の床土層および茶褐色系の包含層を確認した。包含層は、主に表に布目がつき縄目叩のほどこされた瓦が出土しているが、その他須恵器・土師器も出土した。

この包含層が寺院跡の基壇の盛り土になる可能性も考えられたため、ほとんどの試掘トレンチで20cmほど掘り込んだ所で掘削を止めたが、場所によっては多量の瓦が出土した。また、北側のトレンチでは、褐色系の粘土質の中に包含層の土が入り込んでおり、遺構と考えられた。また、一部ではゴミ穴と考えられる深さ220 cmの埋め立て層もあったが、この下で包含層を確認した。この調査結果に基づき本調査の調査計画を作成して依頼者と再度協議したが、他の発掘調査の関係があり、調査開始時期は夏以降に発掘調査を実施することになった。

調査は、依頼者が重機を出してトレンチ設定まで行うとの事で、平成２年８月24日より重機が現地に入った。現地は、前述した様に建設廃土等で1.5 m 前後埋め立ててあり、先ずある程度重機で取り除かなければ以後の作業が困難であるため、かなりの時間を費やした。発掘調査の作業は平成２年８月27日から実施し平成３年２月15日までを要した。

2　調　査　結　果

竹ヶ鼻廃寺の発掘調査は、共同住宅建設に先だち調査を実施したもので、建物建設部分全面にトレンチを設定して調査を実施した。ただし、トレンチは前述した様に排土が多量になるため、半分に分け１トレンチと２トレンチとして排土を半返しにして調査した。

１トレンチでは、重機にて包含層まで削り込み遺構の検出を主に調査したが、「L」字形に設定したトレンチ中央部西側でゴミ穴と考えられる攪乱穴が確認できた。このため、ここを排土置場として調査を行った。調査は、黄褐色粘質土層（包含層）を下げると茶褐色色粘質土になり、土壙・ピット状に包含層の土が残ることや部分的に焼土が入ることによりこの面を遺構面と考えた。また、この包含層の土が入り込んだ道路もしくは溝と考えられる遺構が検出できた。この遺構は、ほぼ東西もしくは南北に直線的に伸びるもので、東西に伸びる太いもので幅約２m を計り、他のものは80cm前後であった。当初『彦根市史』に記載のある基壇の残存したものか、もしくはその方向が現在の竹ヶ鼻町から都恵神社に真直ぐ伸びることから道の遺構かと考えた。遺構の確認状況は以上の包含層の土が入ったものと、また、遺構面が部分的には褐黄色粘質土から砂質土等に変わり、黒灰色粘質土が入り込む遺構がある。この遺構面の変化は徐々にであり変化する所がはっきり分かれて層が違う等の変化ではなかった。鉄・マンガン等の沈着度の違いが大きく影響しているものと考えられる。

２トレンチの調査概要は、１トレンチの調査で包含層を削り込み遺構面を出したため瓦の出土が極少量であったため、２トレンチでは重機による掘削を包含層直上までとし、黄

褐色粘質土層を残して遺物の出土を確認しながら手掘りで包含層を下げ、遺構を出すようにした。また、2トレンチには直交する様に東西に伸びる幅5mのトレンチを設定して遺構の確認を計画したが、排土を出す所がないために、東西トレンチ西側を排土溜めとした。調査の時期は、2トレンチの方が冬場にかかり、回りから流れ込む水と雨等天候不順のために調査は捗らず、最終的には若干調査規模を縮少しなければならなくなった。遺構は、トレンチ南側の旧田面畔を境に地山が変わる。すなわち、旧畔南側では黄褐色粘質土層（包含層）の下で1トレンチと同様の褐黄色土層が遺構面となるが、これより北側では褐灰色粘質土層（部分的に青灰色粘質土層）になり、この面で遺構を確認した。また、東西トレンチ東側では包含層を2回ほど掘り下げたが、川原石の列石および石や瓦を入れ込んだ瓦溜め等が見られ、この他にこの層の中に瓦が包含されている状態であった。川原石は人頭大のものであり、以前の田もしくは畑の畔の基底部のものと考えられ、瓦溜めも田、畑造成時に埋め込んだものと思われる。以上1・2トレンチの包含層および遺構面の状況について記してきたが、次の各トレンチの遺構について記す。

〈1トレンチ〉

1トレンチの主要遺構は、寺院跡周辺の集落を示すものおよび竹ヶ鼻廃寺の前史を物語る集落跡の存在がはっきりと確認できた。

出土遺物から見れば、ゴミ穴で潰された4分の1程度残存していたSH－4内で出土した壺と甕口縁部片で弥生時代前期後半と考えられる。この遺物は、住居跡下層の包含層と考えられるが、厚さ15cm程のもので、竹ヶ鼻廃寺では一番古い時期を表わしている。しかし、この時期の遺構等は不明である。

SH－1

1トレンチの南側で確認したもので、中央部南側をSD－1および東端をSD－2に切られた住居跡で、主軸はN－27°－Eを示す。一辺4m強を計り、住居跡北側隅はやや不整形であるが方形プランを持つものである。また、埋土中には焼け土が入っていたが、住居跡内のピットと考えられるものは検出できなかった。また、埋土内の遺物は土師器片が極少量でありその時期は不明である。

SH－2

SH－2は、SH－1北隣1m弱の所に所在し、中央部東側をSD－1に切られており主軸はSH－1とほぼ並行しN－30°－Eを計る。一辺4m前後を計りやや長方形のプランを持つが、住居跡内でのピットの検出はできなかった。この住居跡でも埋土内からは土師器片が出土しているが、明確に時代のわかる遺物は出土しなかったが、焼土は入っていた。

ＳＨ—３

ＳＨ－３は、ＳＨ－２の西側で南隅だけ検出したもので、その大部分は以前のゴミ穴で攪乱されていた。現況から言えばやや不整形であるが、隅丸方形プランのものと考えられ、主軸はＮ－13°－Ｅであった。埋土中の遺物は、土師器が極少量出土しただけであり、その時期は不明である。

ＳＨ－４

ＳＨ－１－３の住居跡群より北側約６ｍの所で検出した住居跡で、主軸はＮ－38°－Ｅを示す。トレンチ壁面とゴミ穴の攪乱のため３分の１ほどしか残存していなかった。この住居跡は20cm程掘り下げた所で黒茶色粘質土の落ち込みがあり、掘り込んだが、弥生時代前期後半と考えられる壺口縁および頸部等が出土した。当初住居跡内のピットかと考えたがこの遺物だけが古いことから考えて、ＳＨ－４が弥生時代前期の遺構を切って作られたものと考えられる。

ＳＨ－５

ＳＨ－４と並ぶ形で検出した住居跡で、主軸はＮ－22°－Ｅを示している。１辺４ｍ前後の方形プランを持つもので、住居跡内ピットと考えられるピットが床面を３ヶ所確認した。また、この住居跡では床面よりは浮いていたが、二重口縁の壺がその場で割れた形で出土した。

ＳＤ－１

トレンチを斜めに横断しながら南北に走る溝で、全長で約40ｍを確認しており、幅は80cm前後を計る。ＳＤ－２・ＳＤ－３と交差しているが切り合いの状態は確認できなかった。溝の形状は、深さ90cmの「逆台形」状をなしていた。

ＳＤ－２

トレンチ南側で検出した溝で、約16ｍを確認したが、ゴミ穴による攪乱より西側では検出できなかった。幅は1.4ｍで　深さ55cmを計り、その形状は「逆台形」状をなし、方向はＮ－68°－Ｗであった。

ＳＤ－３

トレンチ南側を都恵神社から竹ヶ鼻の集落に向って真直ぐに走るもので、当初道かと考えたものであるが、トレンチ東壁極で断ち割りを行っなったところ二段に掘り込まれた「逆台形」状を成した溝である事を確認したもので、他の地点を２ヶ所掘り込んだ結果、他の地点では段は確認できなかったが、「逆台形」状の溝であった。この溝は深さ110cm幅2.4ｍを計り、他の溝と比較すれば遺物の量は多かった。その方向はＮ－81°－Ｗである。

以上ＳＤ－１からＳＤ－３の溝は、その埋土の上層の土が包含層の土であり、埋土中の遺物は土師器・須恵器が主であるが、極少量瓦も混っており、この溝が最終的に埋ったの

が竹ヶ鼻寺が廃絶してからと考えられる。ただし、埋土内の遺物で一番多いものは古墳時代後期のものである。

ＳＤ－４

トレンチ西端で検出したもので、ＳＤ－３を切って直交する幅30cm深さ10cmの「Ｕ字形」を成したものであり、約９ｍの所で切られていた。その方向はＮ－15°－Ｅであった。

ＳＢ－１

トレンチ北側で検出した掘立柱建物跡で、ＳＤ－１を跨ぐ形で主軸をＮ－6°－Ｗに振るものである。確認している建物の規模は１間×３間で、柱間は長軸方向２ｍ・短軸方向3.6ｍを計り、柱穴は不整形であるが50cmから100cmの大きさを持つ。建物は、トレンチ外に広がる可能性は考えられるが、ＳＢ－２を見れば、この規模である可能性が大である。

ＳＢ－２

ＳＢ－１の東側約10mで確認した建物跡は１間×３間の規模を持ち、主軸はＮ－70°－Ｗである。柱間は、長軸方向が中央部のそれで1.6ｍと若干短いが両端は２ｍであり、短軸方向は４ｍを計る。

〈２トレンチ〉

２トレンチは、１トレンチの東北側で設定したもので現状の地形を見れば、北側に向って徐々に下がっていく。ただし、この地域も１トレンチと同様表土層は建設廃土で埋め立ててあり、その厚さは1ｍ以上におよぶものであった。２トレンチの調査は、包含層の直上まで重機で掘削し、包含層から手掘りとした。このため、包含層内における遺物の出土状況が明確になった。包含層は厚さ40cmありほぼ３回に分けて掘り下げた。

包含層の遺物は、古墳時代後期の須恵器坏身等が完形で出土する等したが、量的には瓦が圧倒的に多く出土した。瓦の出土状況は、包含層の中に包含されたものと田・畑等の造成時に出土したものをまとめて埋め込んだ状態のものがあった。いずれにしても、竹ヶ鼻廃寺の基壇等の遺構を完全に削平した土が包含層になったものと考えられた。

２トレンチは、前述した様に絶えず調査面が冠水する状態であったため、トレンチ内を区切り小区に分けて調査を行った。ちなみに小区名は、南側からＳ区・Ｓ２区・Ｎ区とし、畔基底部の石列・瓦溜め等が確認できた所をＥ区、また土置場にした所をＷ区とした。

ＳＨ－６

ＳＨ－６は、トレンチ北端のＮ区で検出したもので、１辺4.4ｍを計る方形プランを成すものである。主軸はＮ－15°－Ｗで深さは15cmほどであった。地山は、Ｓ２区南側で以前の田の畔があり、これより北側は褐灰色粘質土層になると共に北を向いて徐々に下がり出し湿地に近い地形となる事が考えられた。埋土中の遺物は、須恵器片等が少量出土している。

SB－3

S区で検出した建物跡で、柱穴から見れば2間×3間の総柱建物跡であるが、北側で2ヶ所柱穴を確認しており3間×3間の建物跡になる可能性も考えられる。柱穴は不整形なものもあるが、方形ピットを基本としており、一辺80cm前後を計り、柱間は短軸方向が1.8mで長軸方向が1.6mであった。主軸は、N－17°－Eであった。

SK－21

径1m程のピットであったため全面掘り込んだが、深さ45cmで中に長甕および赤焼けの須恵器の坏身が出土した。

SX－1

N区北側で検出した径1.5m程の土壙であり当初井戸と考えて掘り込んだが、遺構検出面より130cm程掘り込んだ所で、馬か牛の大腿骨と思われる獣骨が出土した。この時点で中に入っていた黒灰色粘土層は変わらず、底までは至っていなかったが、断面用の畔が崩壊したため、図面や掘り込みは不可能となった。最終的に獣骨の取り上げだけを行った。

3 まとめ

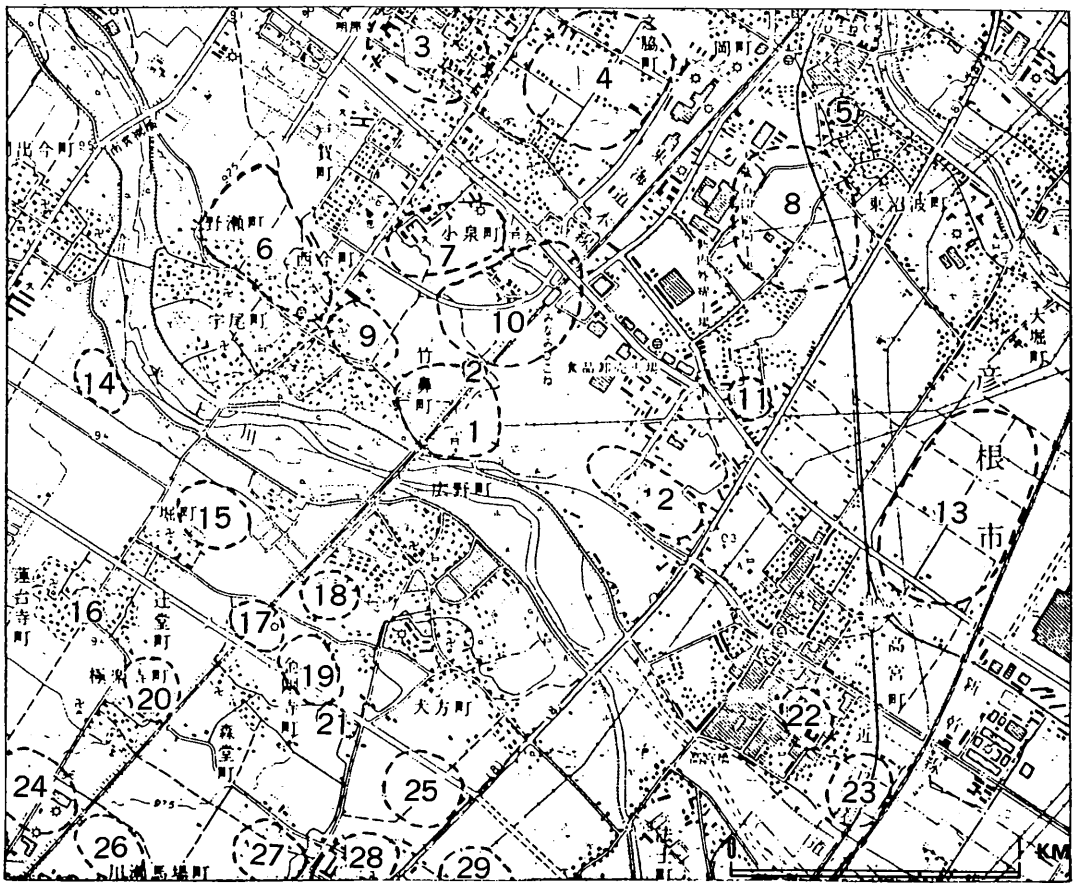
前章で今回の調査結果について主要遺構に限って述べてきたが、以下に調査を行っているうちに気付いた点を数点記してまとめとしたい。

今回の調査で、この附近では、初めて弥生時代前期後半の遺物が出土した。この事は、当遺跡の開始時期が溯るばかりでなく、この地域の歴史を考える上で重要な資料となると考えられる。また、出土遺物のうち瓦類の他では、古墳時代後記の遺物が多く、なかでも子持勾玉が1点出土した。この地附近に古墳があったと言われている事と考え合わせれば、竹ヶ鼻廃寺の前史として有力な集落が育っていたと言えるだろう。

出土遺物で圧倒的に多量であったのは、竹ヶ鼻廃寺関係の瓦類であるが、瓦の出土量に比して塼も多数出土しており、竹ヶ鼻廃寺が塼積み基壇であった可能性が考えられる。

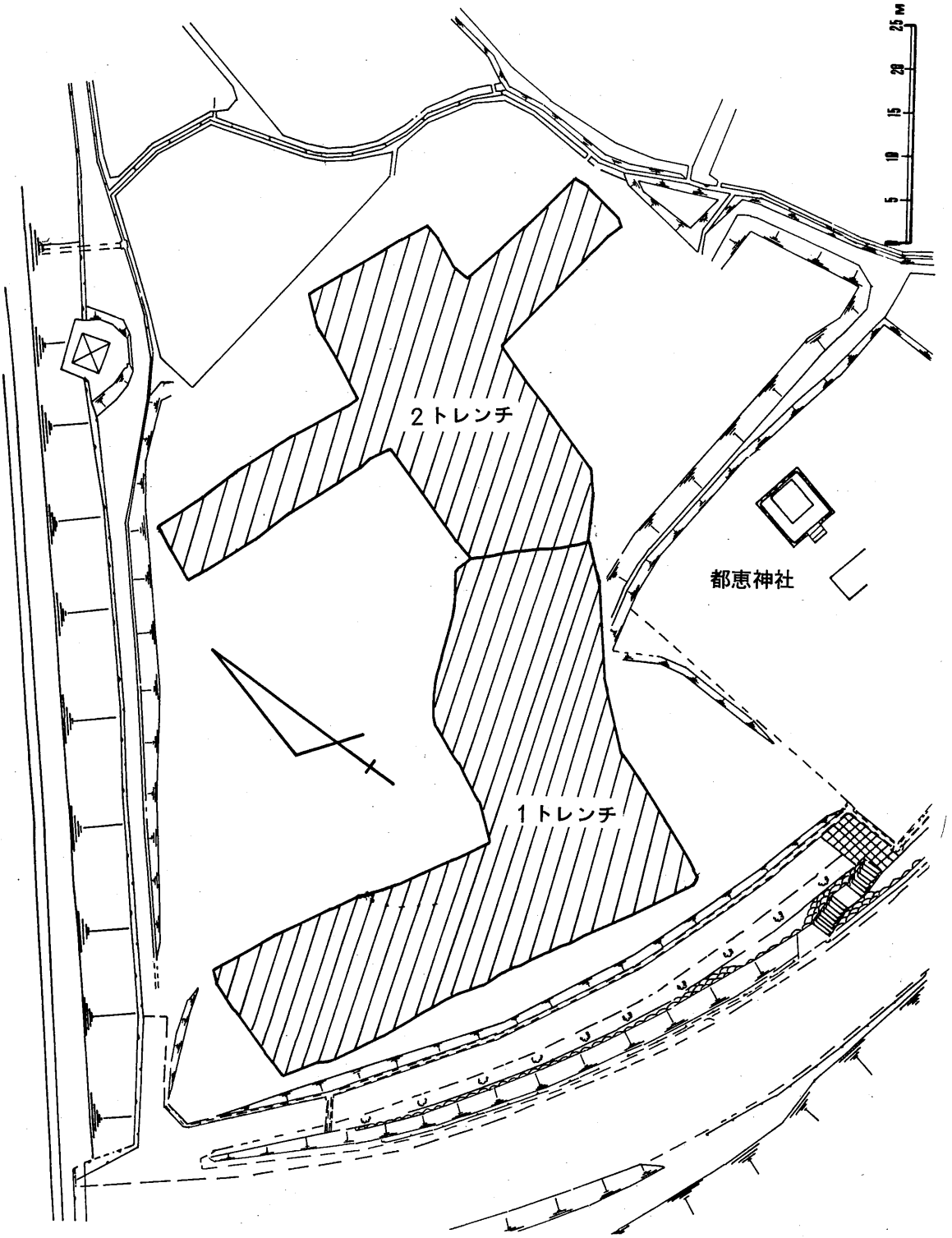
また、出土した瓦類は、ほとんどが軟質化しており洗浄すると溶ける状態の非常に保存状態の悪いものであった。このことは、瓦類が二次的に火を受けた可能性を物語るものと考えられる。ただし、包含層等に焼土・灰や炭化物が多量に混っているということは確認できなかった。

出土遺物から見た今回の調査地点における竹ヶ鼻廃寺の状態は以上の様なものであるが、遺構的に考えるならSD－3はほぼ南北に走る溝であり、竹ヶ鼻廃寺の寺域を画する溝である可能性が考えられるが、今後の調査の進展を待ちたい。

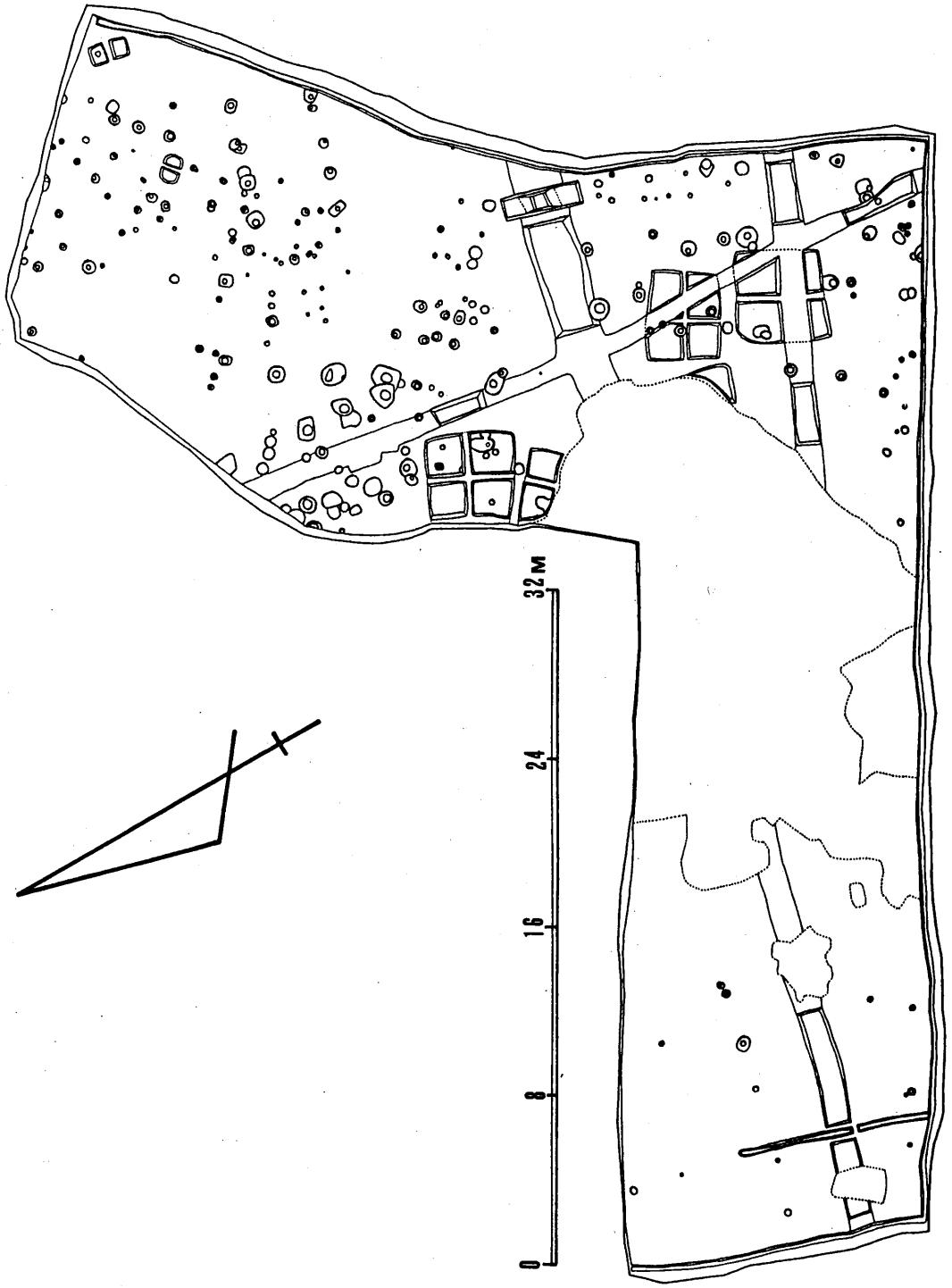


1	今回調査地(竹ケ鼻廃寺)	11	遊行塚遺跡	21	神ノ木遺跡
2	椿塚遺跡	12	丁田遺跡	22	高宮城跡
3	木戸口遺跡	13	藤丸遺跡	23	カットリ遺跡
4	山之脇遺跡	14	上沢尻遺跡	24	杉田遺跡
5	東沼波遺跡	15	門田遺跡	25	段ノ東遺跡
6	須川遺跡	16	蓮台寺遺跡	26	西海道遺跡
7	福満遺跡	17	石原遺跡	27	天田遺跡
8	道ノ下遺跡	18	横地遺跡	28	極楽寺遺跡
9	西今遺跡	19	堀南遺跡	29	葛籠北遺跡
10	品井戸遺跡	20	辻ノ東遺跡		

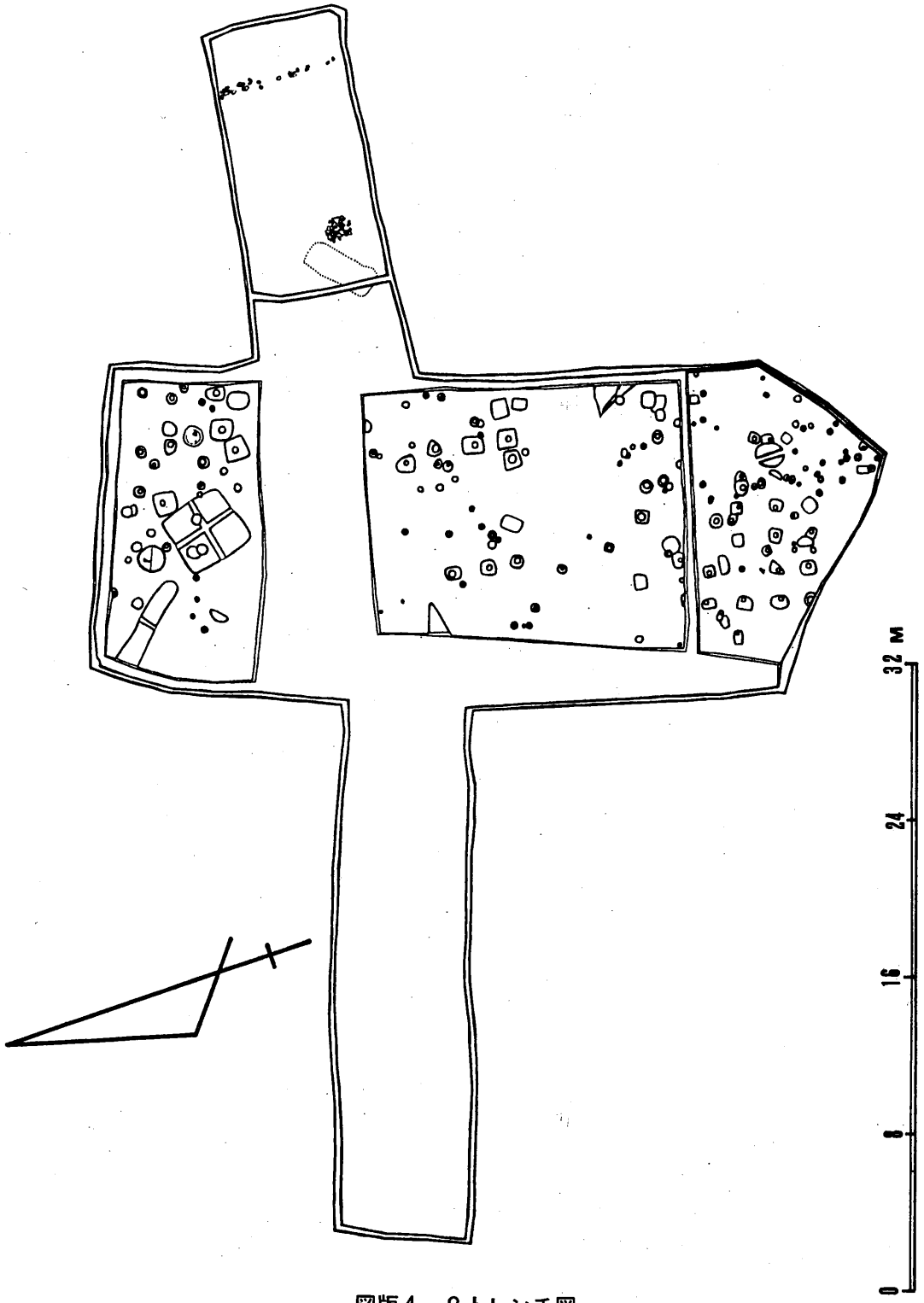
図版1　調査遺跡位置図



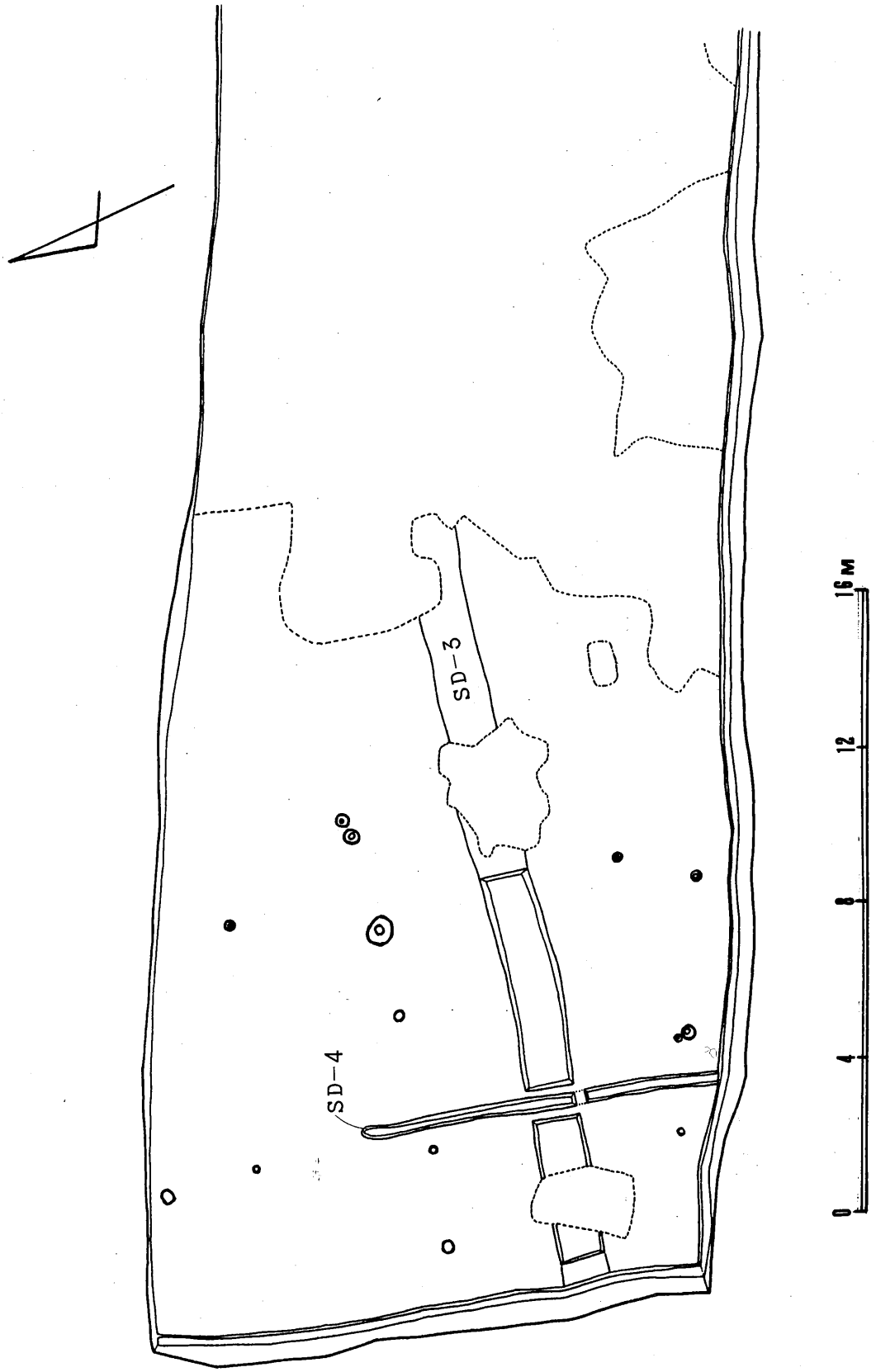
図版2　トレンチ配置図



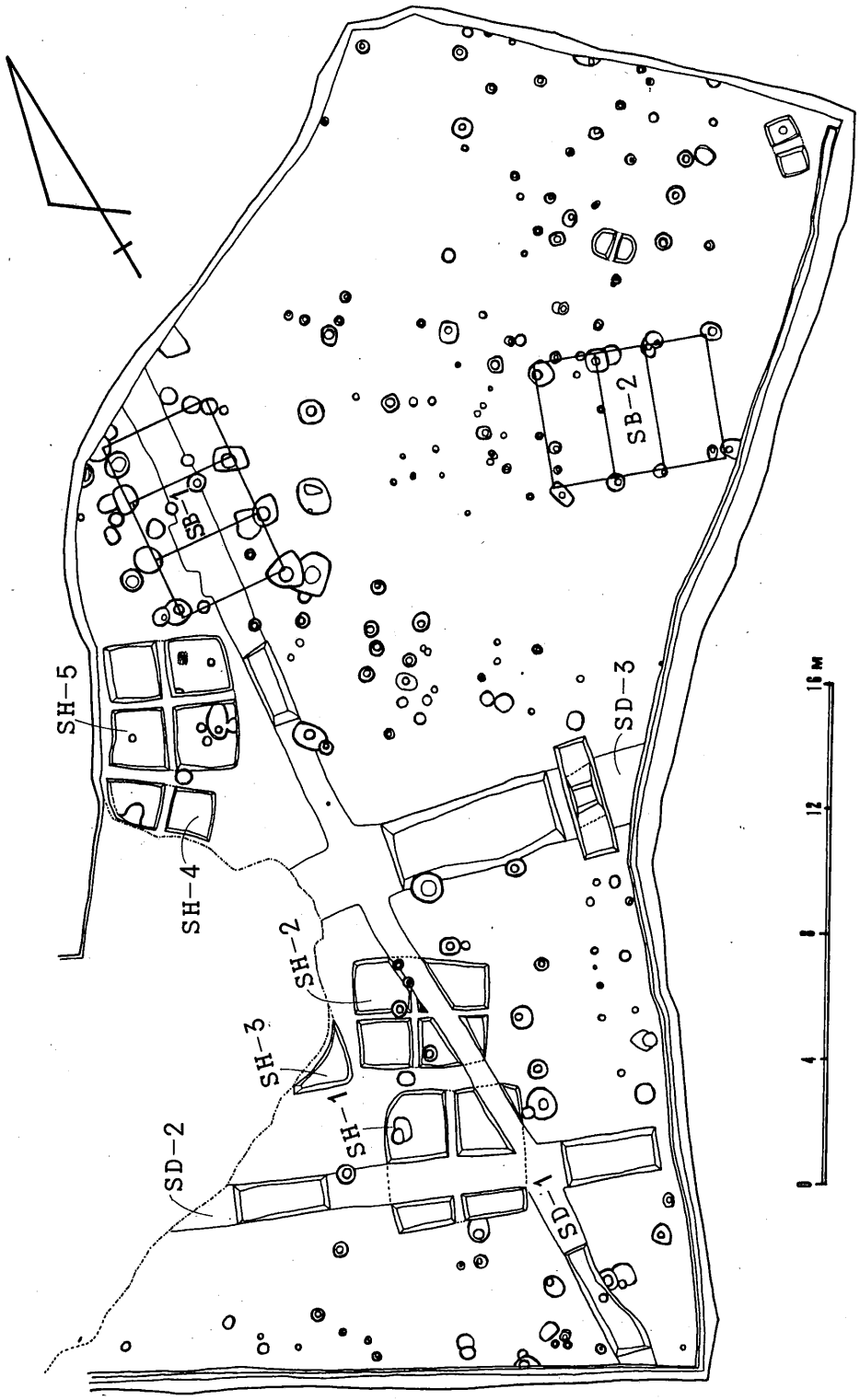
図版３　１トレンチ図



図版4　2トレンチ図



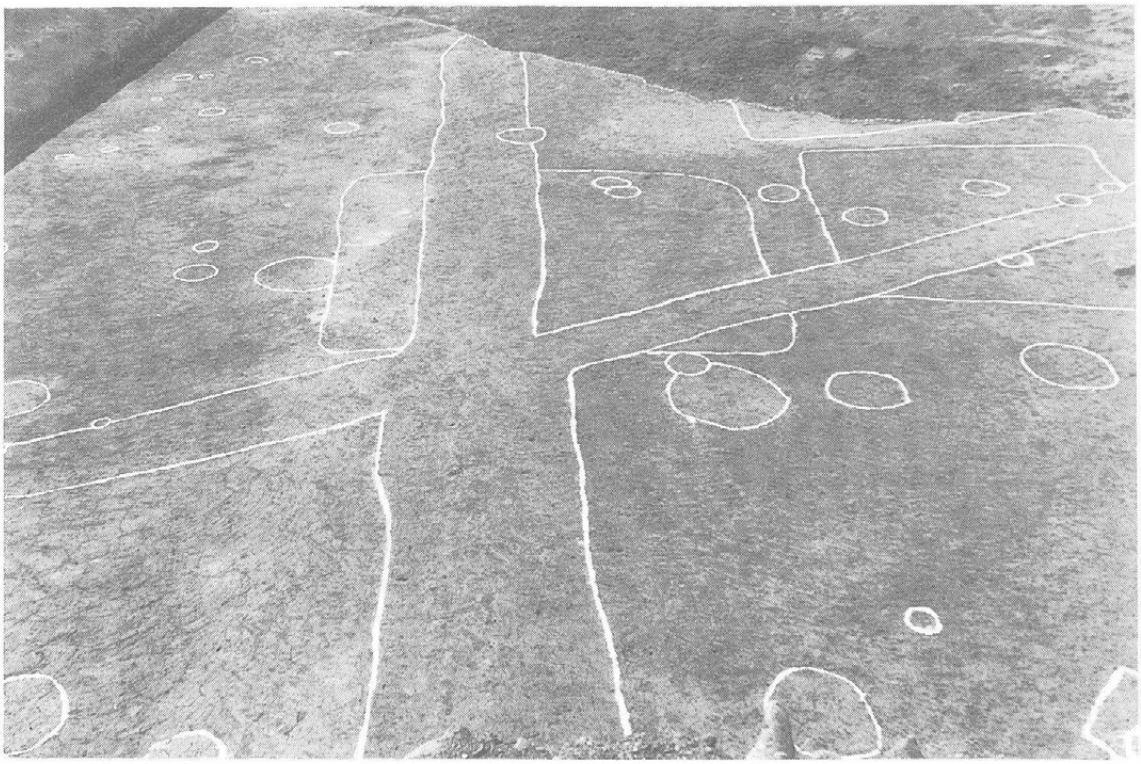
図版5　1トレンチW区遺構実測図



図版6　1トレンチS・N区遺構実測図

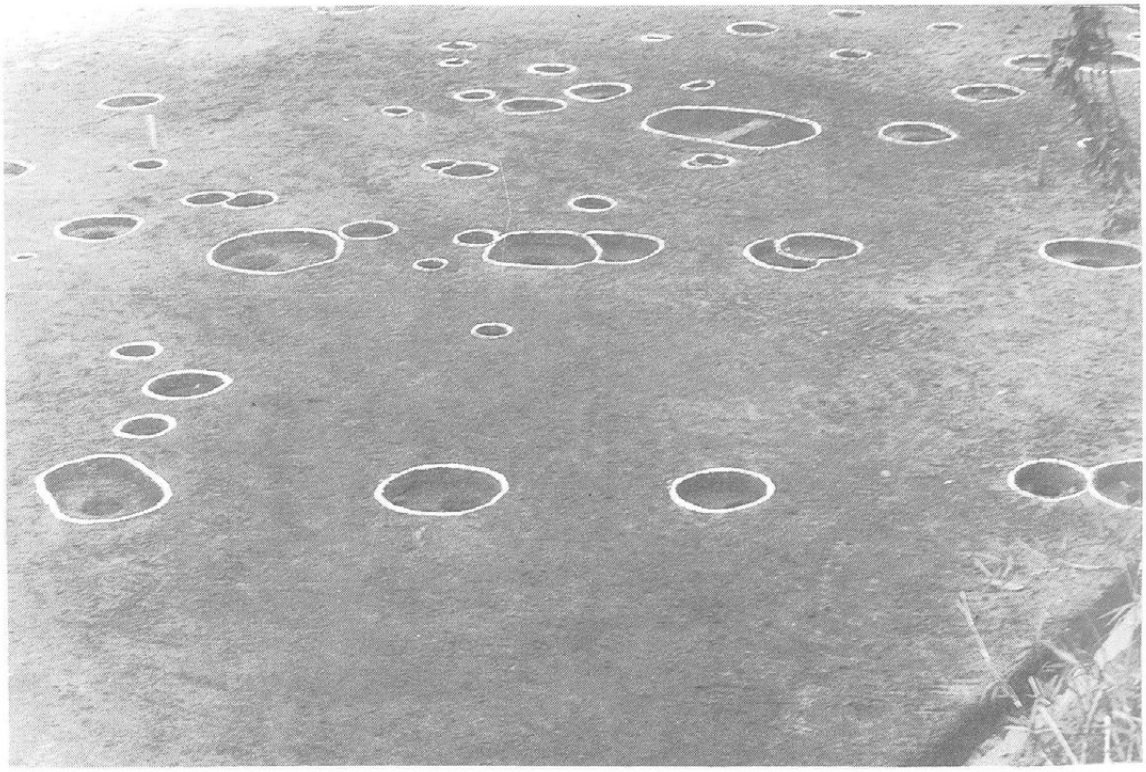
図版7　2トレンチS・N・E区遺構実測図

1トレンチ遺構検出状況（南東側から）

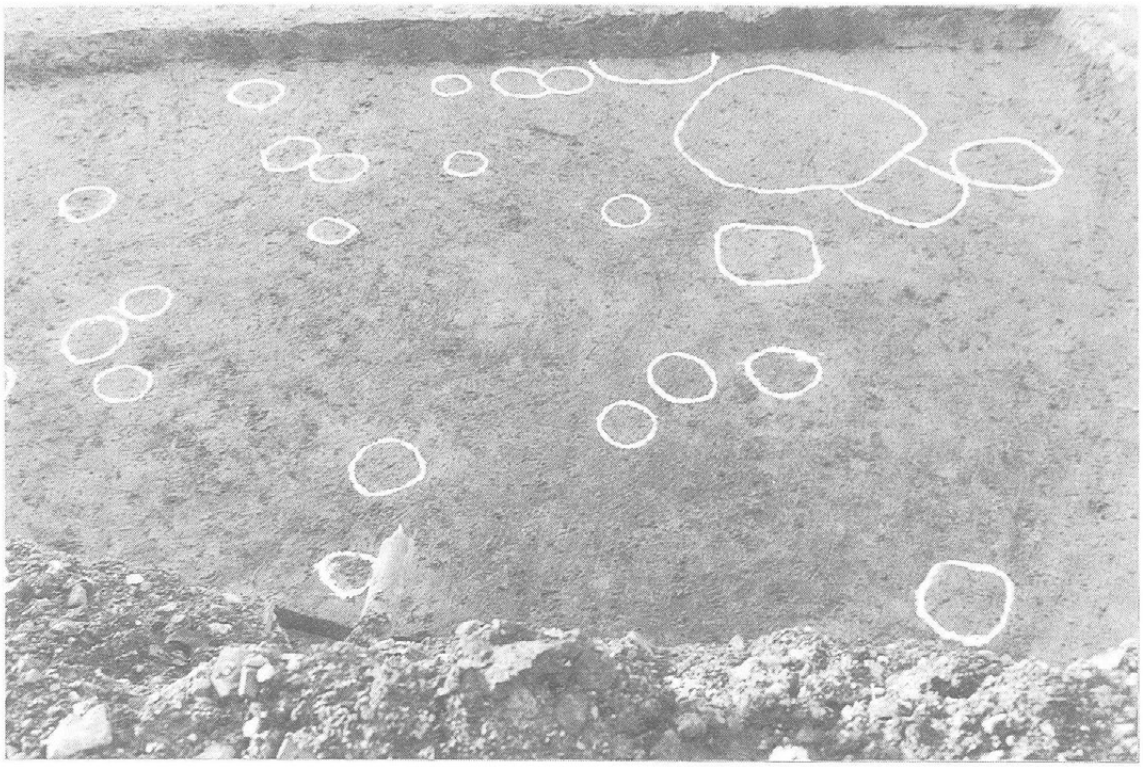


図版8　1トレンチ遺構検出状況（南側から）

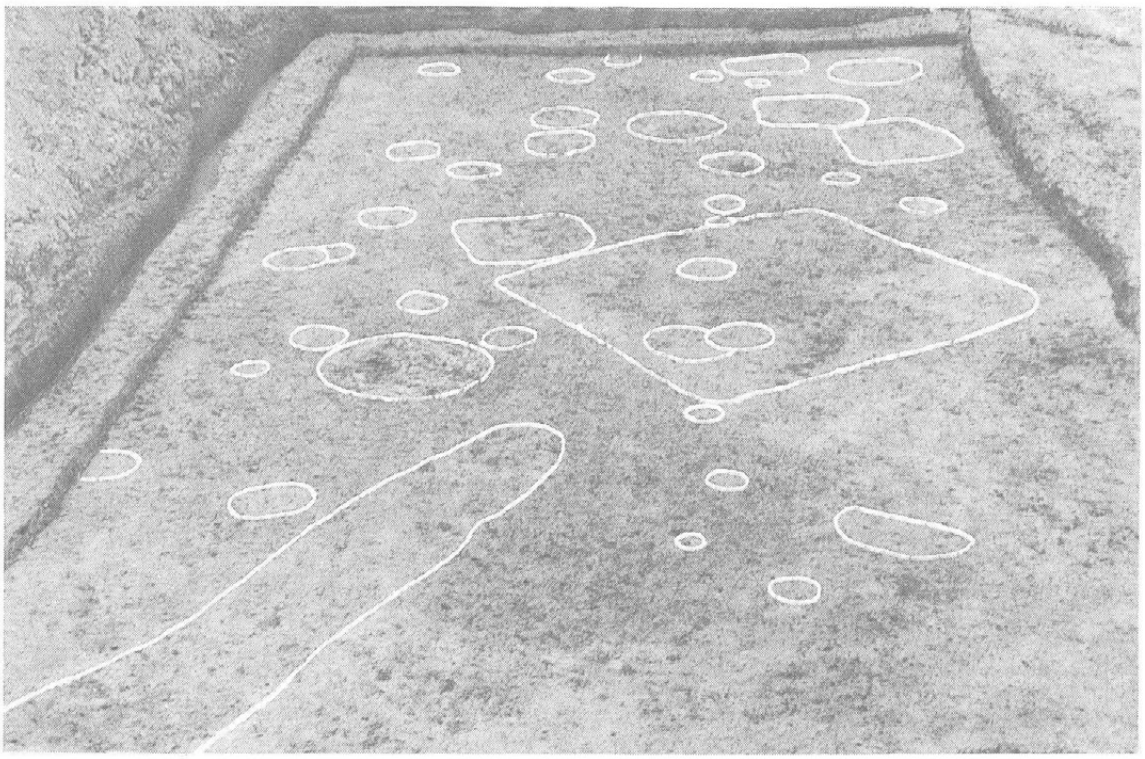
1トレンチ遺構掘り込み状況（東側から）



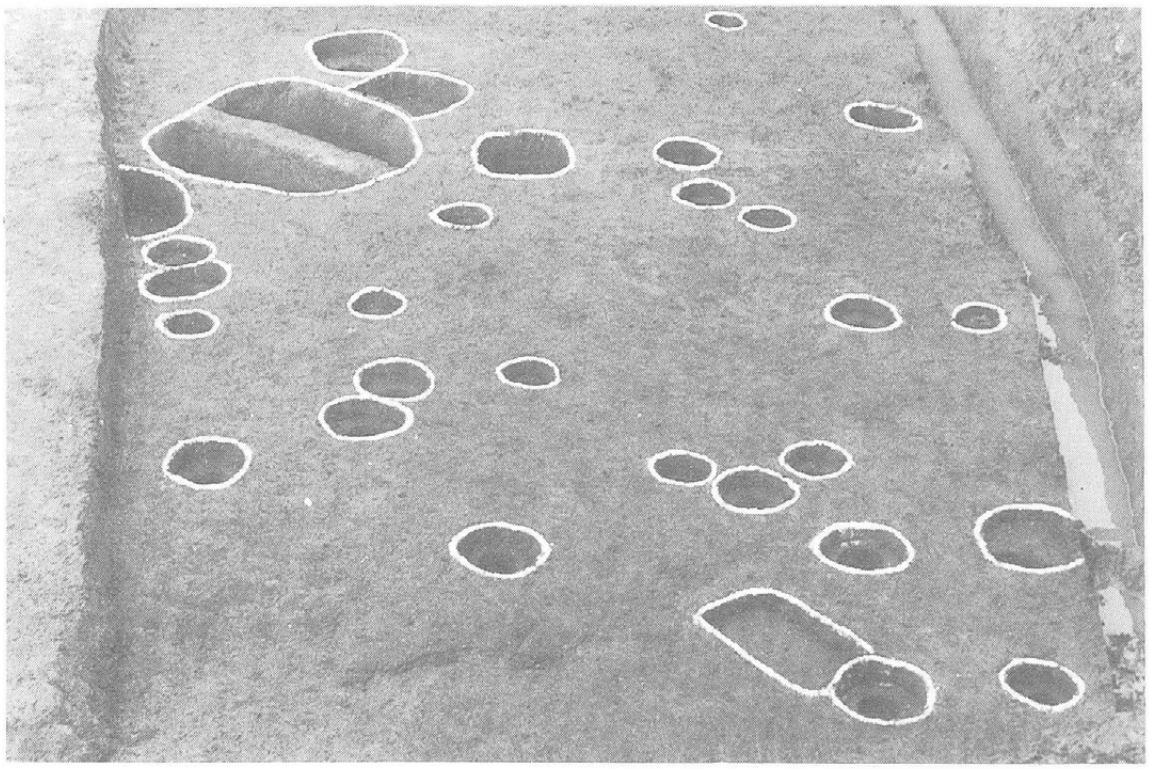
図版9　　1トレンチＳＢ－２掘り込み状況（南側から）



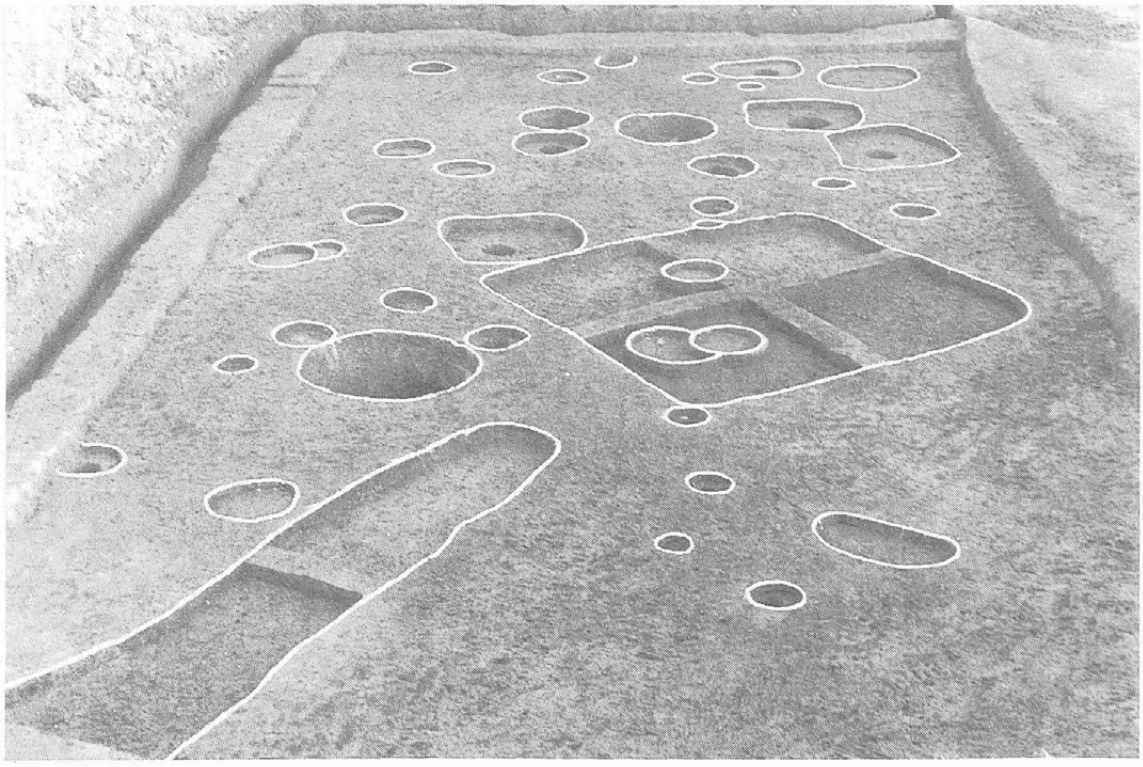
2トレンチS区遺構検出状況（南東側から）



図版10　2トレンチN区遺構検出状況（北西側から）



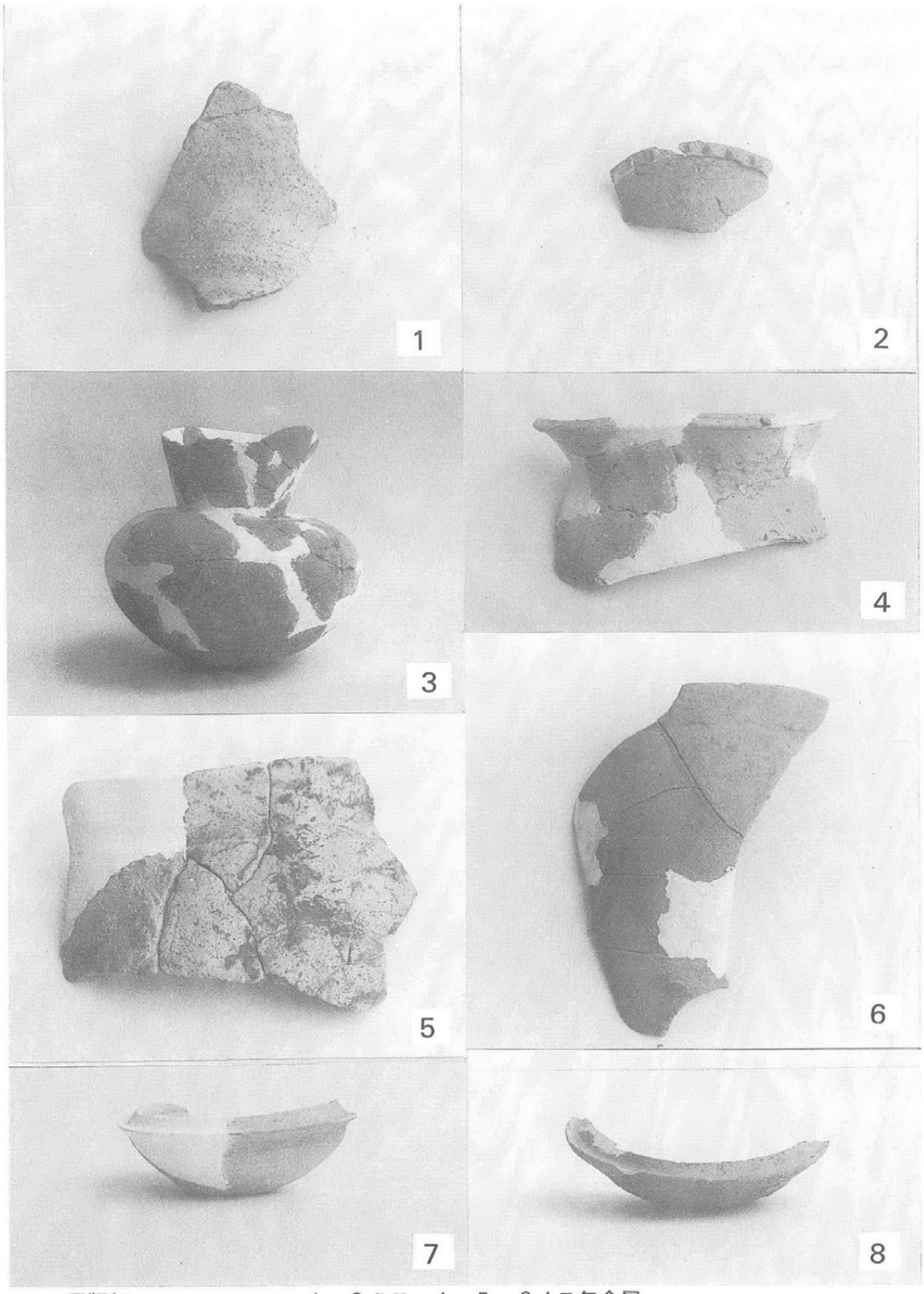
2トレンチS区遺構掘り込み状況



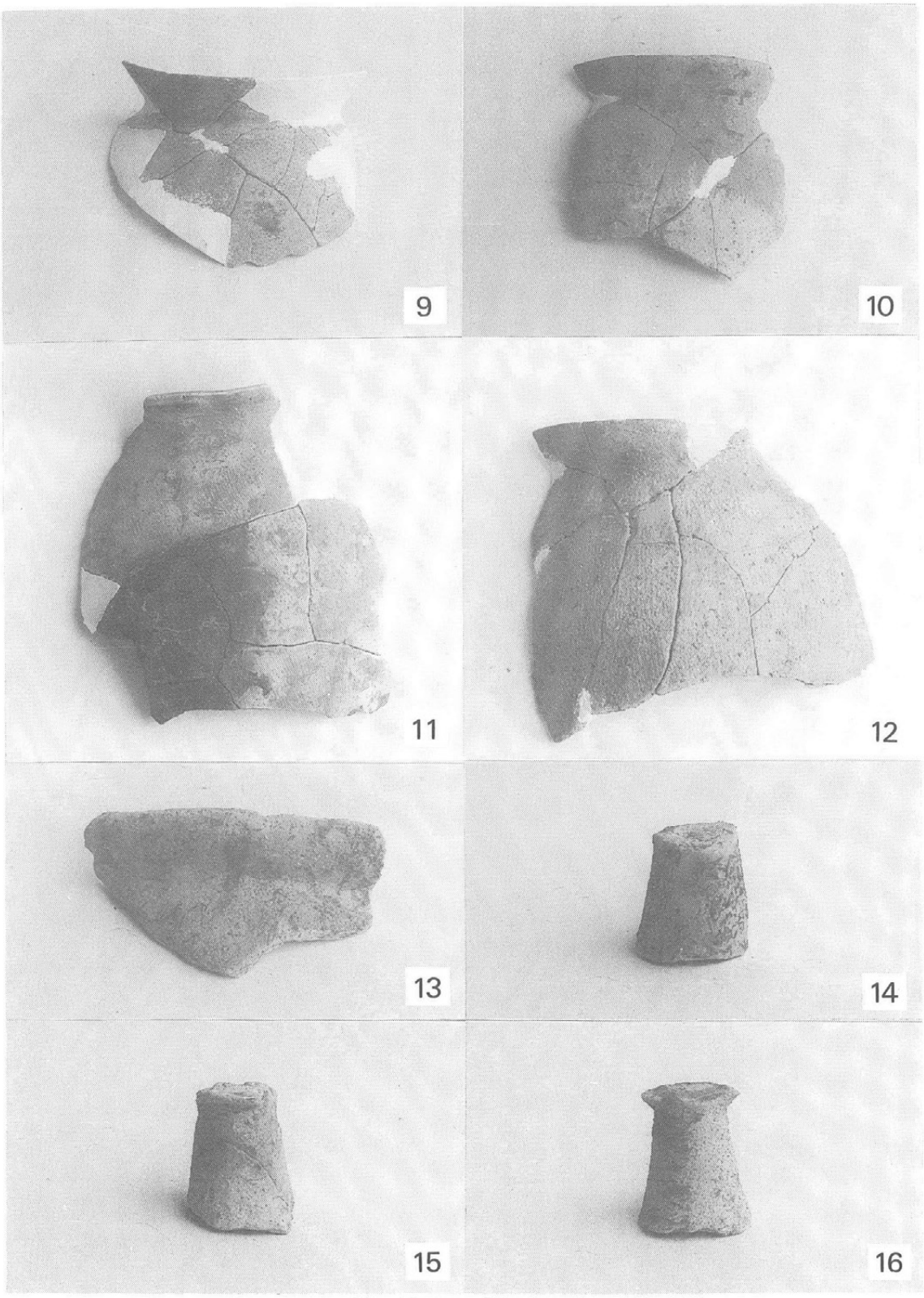
図版11　2トレンチN区遺構掘り込み状況

1トレンチＳＨ－５遺物出土状況

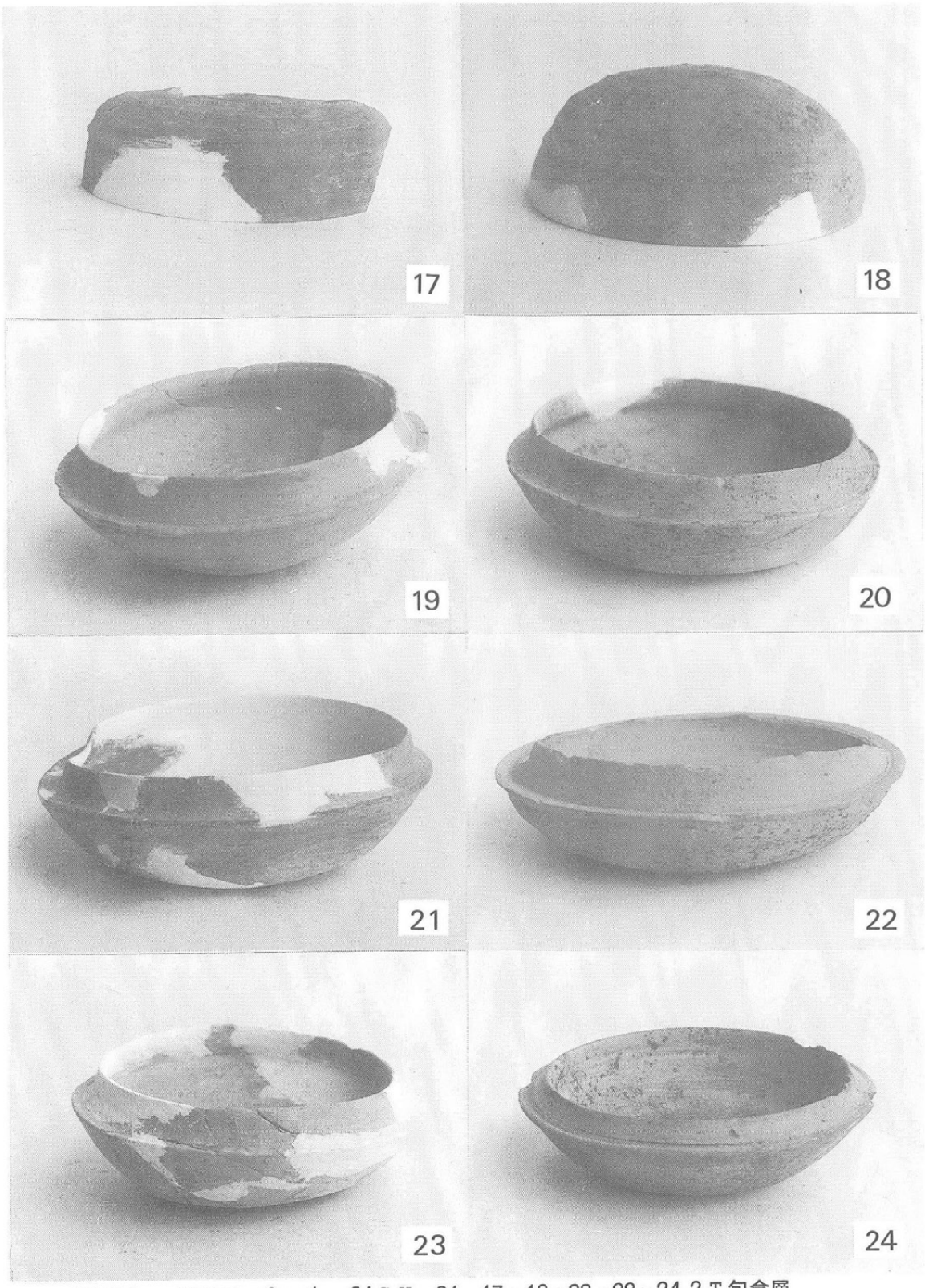
図版12　　2トレンチＳＸ－１獣骨出土状況



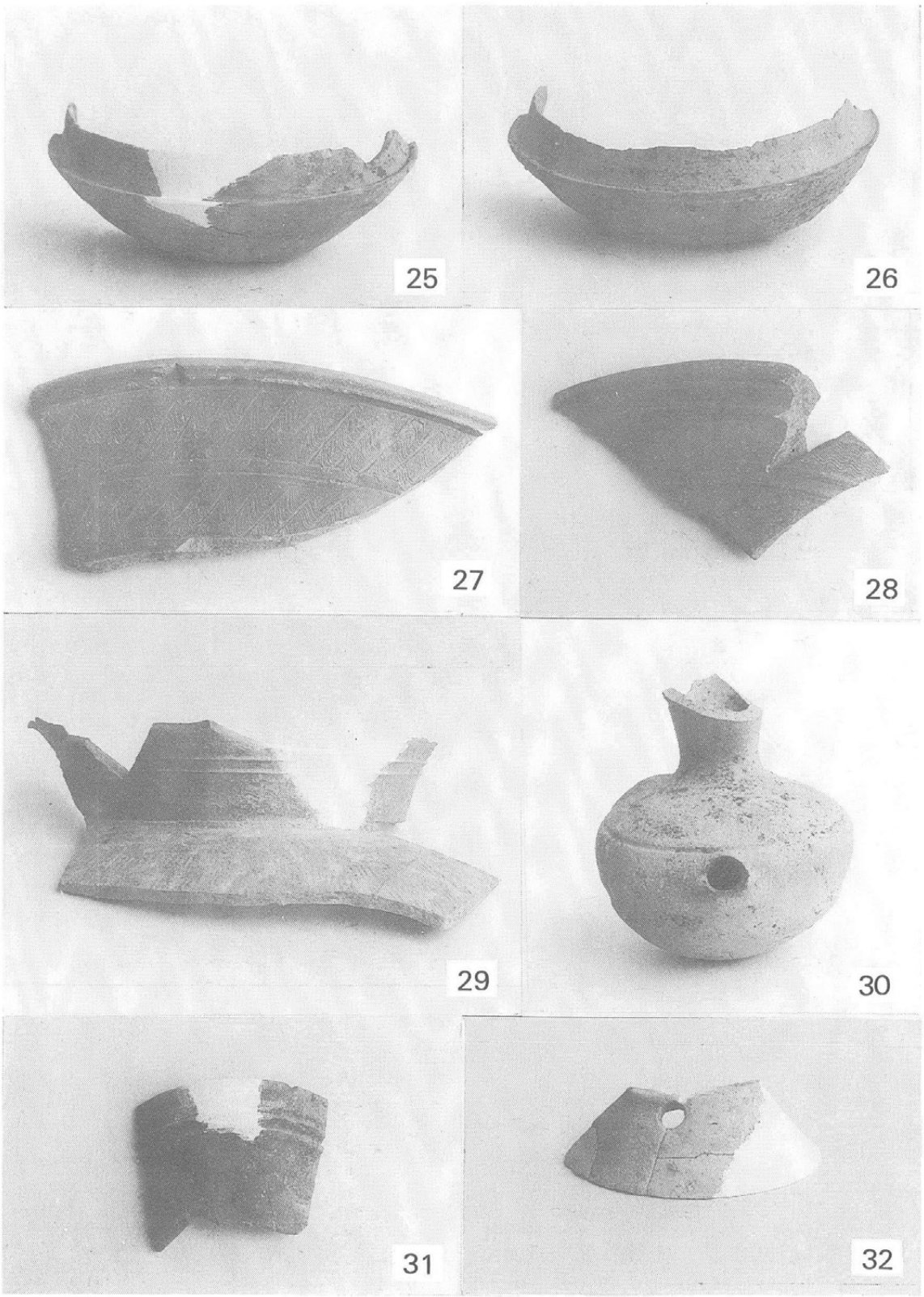
図版13　　1・2ＳＨ－4、3～81Ｔ包含層



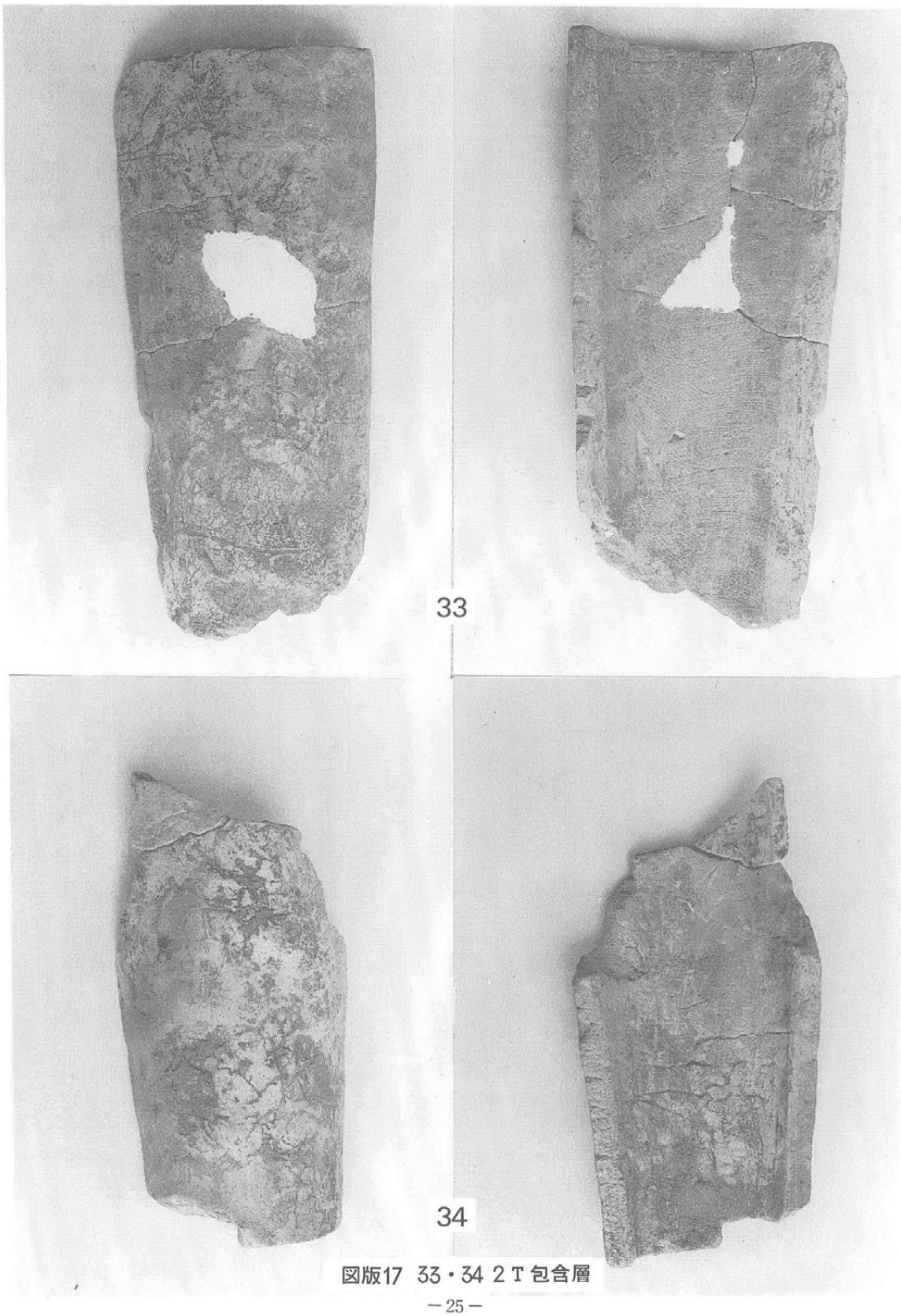
図版14　　９ＳＨ－５、11・12ＳＫ－21、10・13～16包含層



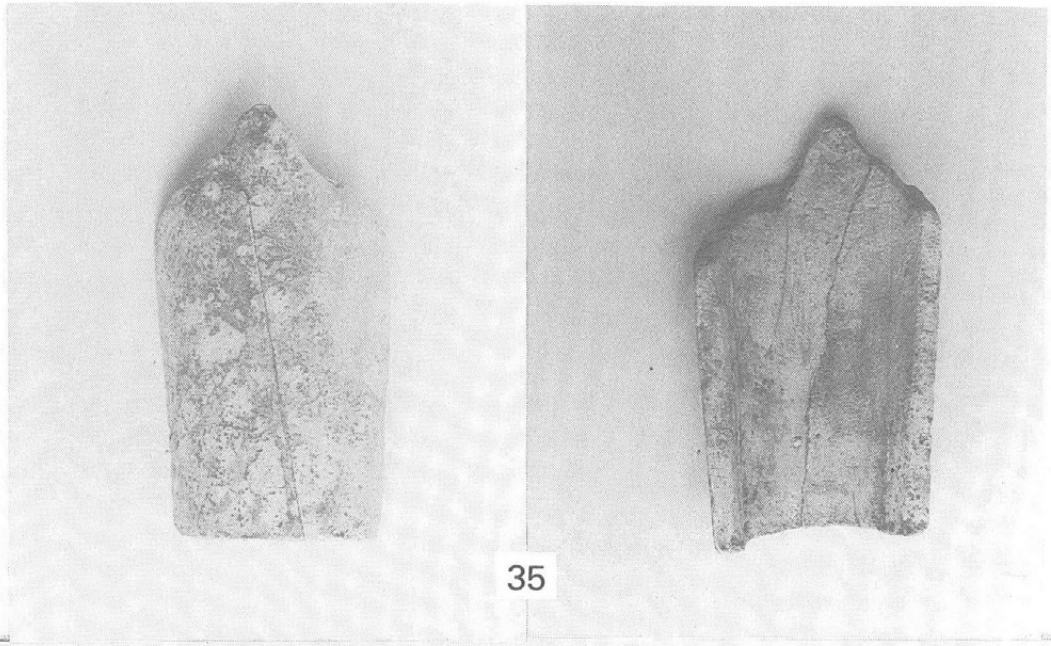
図版15　19ＳＫ－２－１、21ＳＫ－21、17・18・20・22～24 ２Ｔ包含層



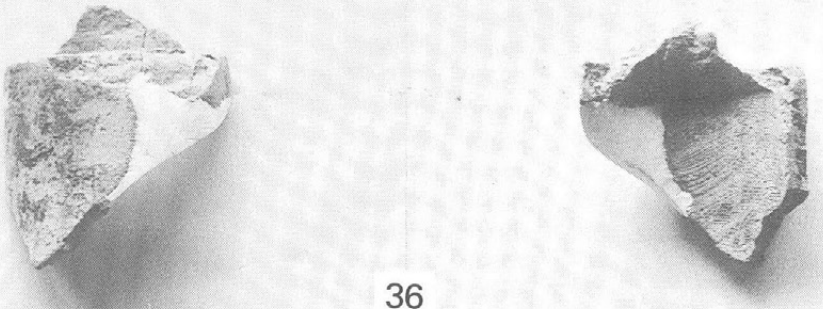
図版16　　26Ｐ－２－２、25・27～32 ２Ｔ包含層



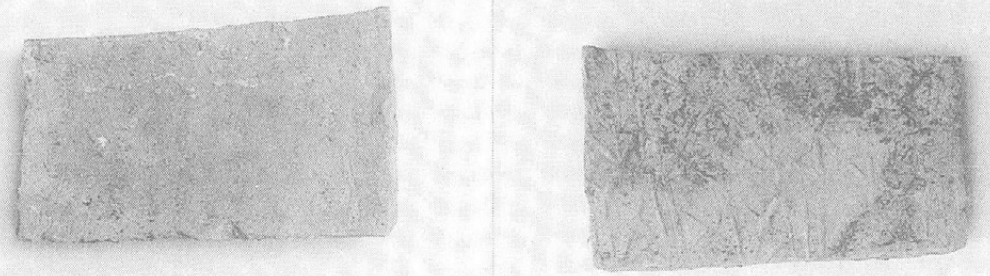
図版17　33・34　2Ｔ包含層



35

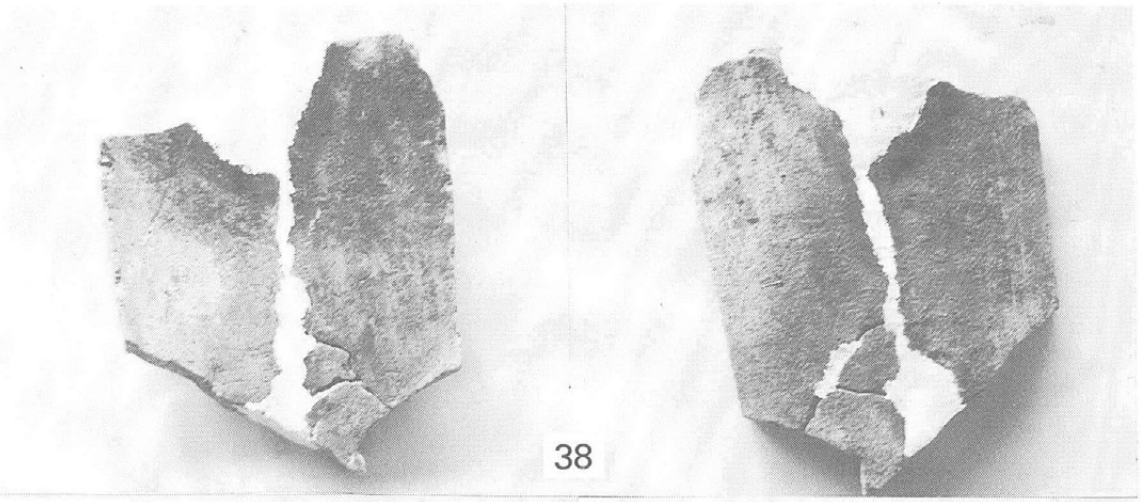


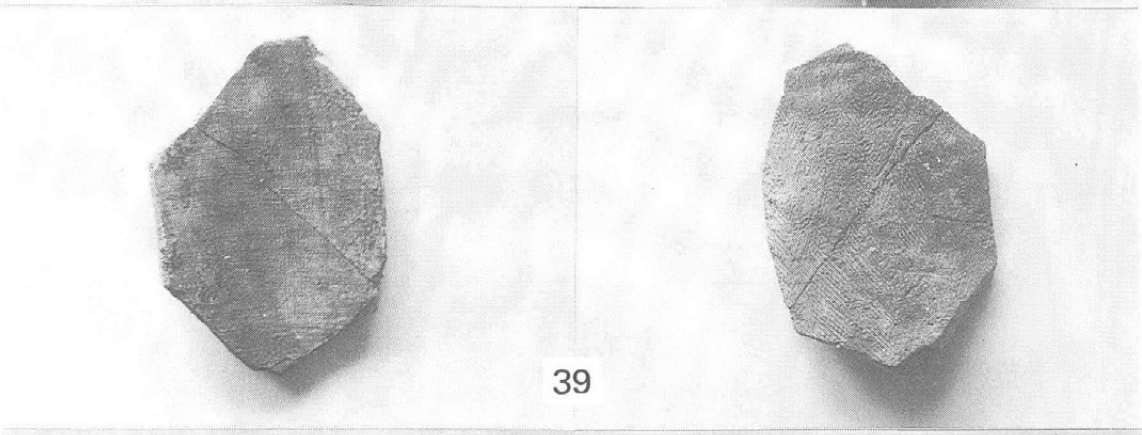
36

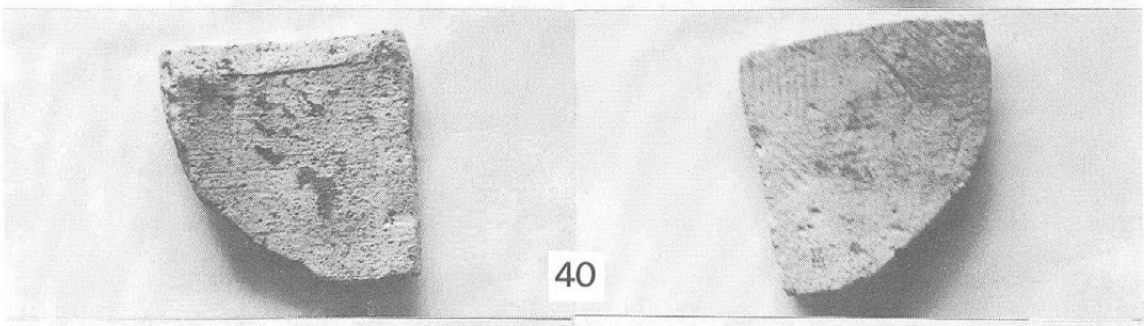


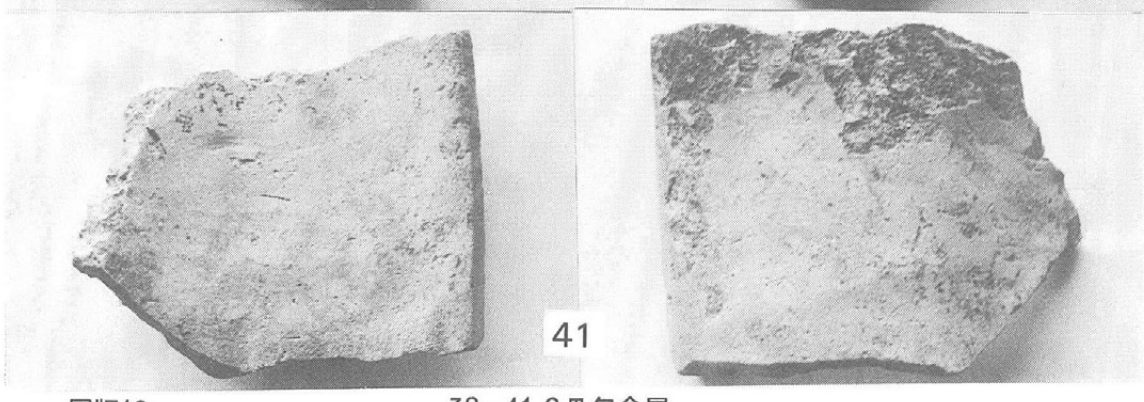
37

図版18　35～37 2Ｔ包含層

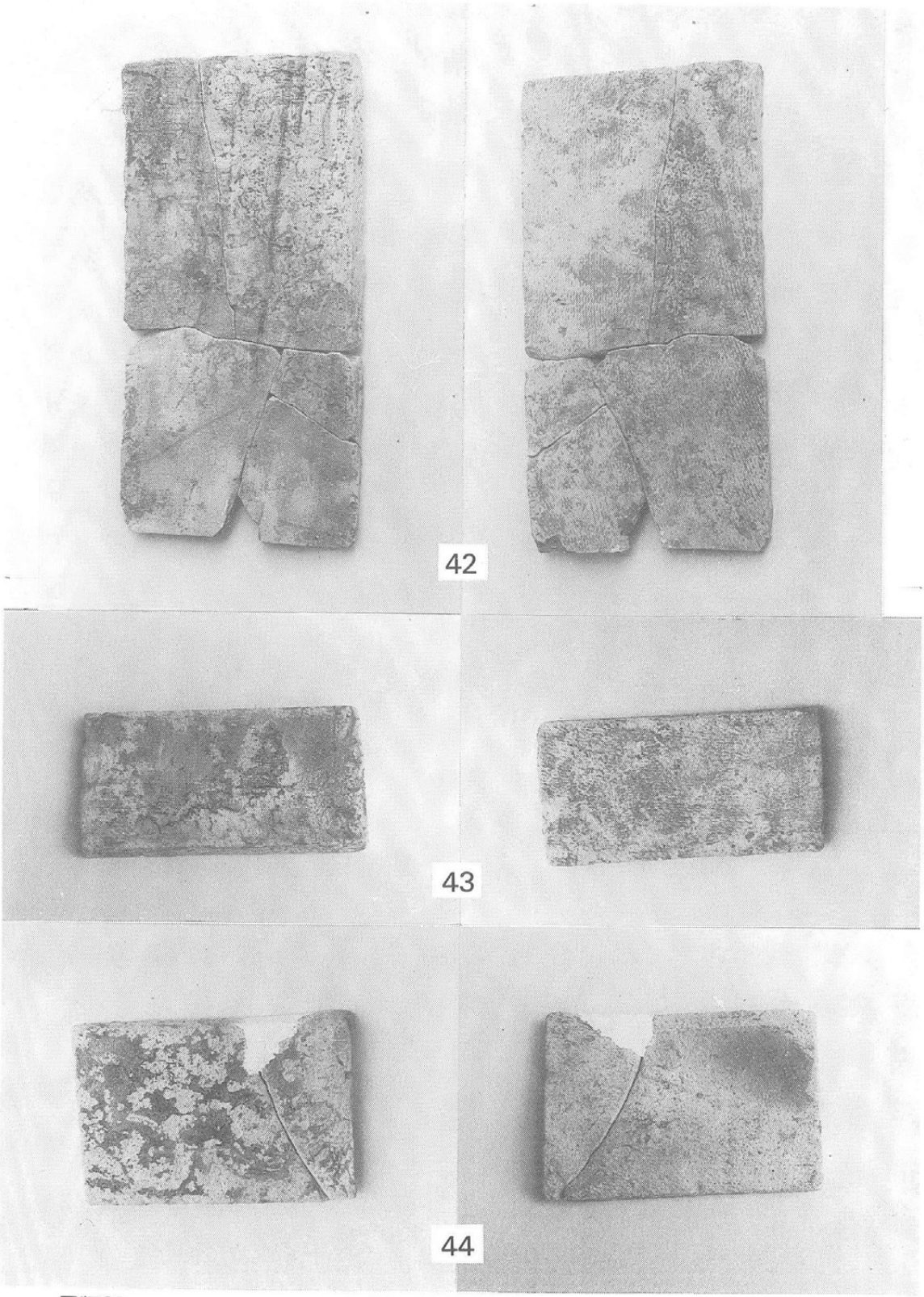




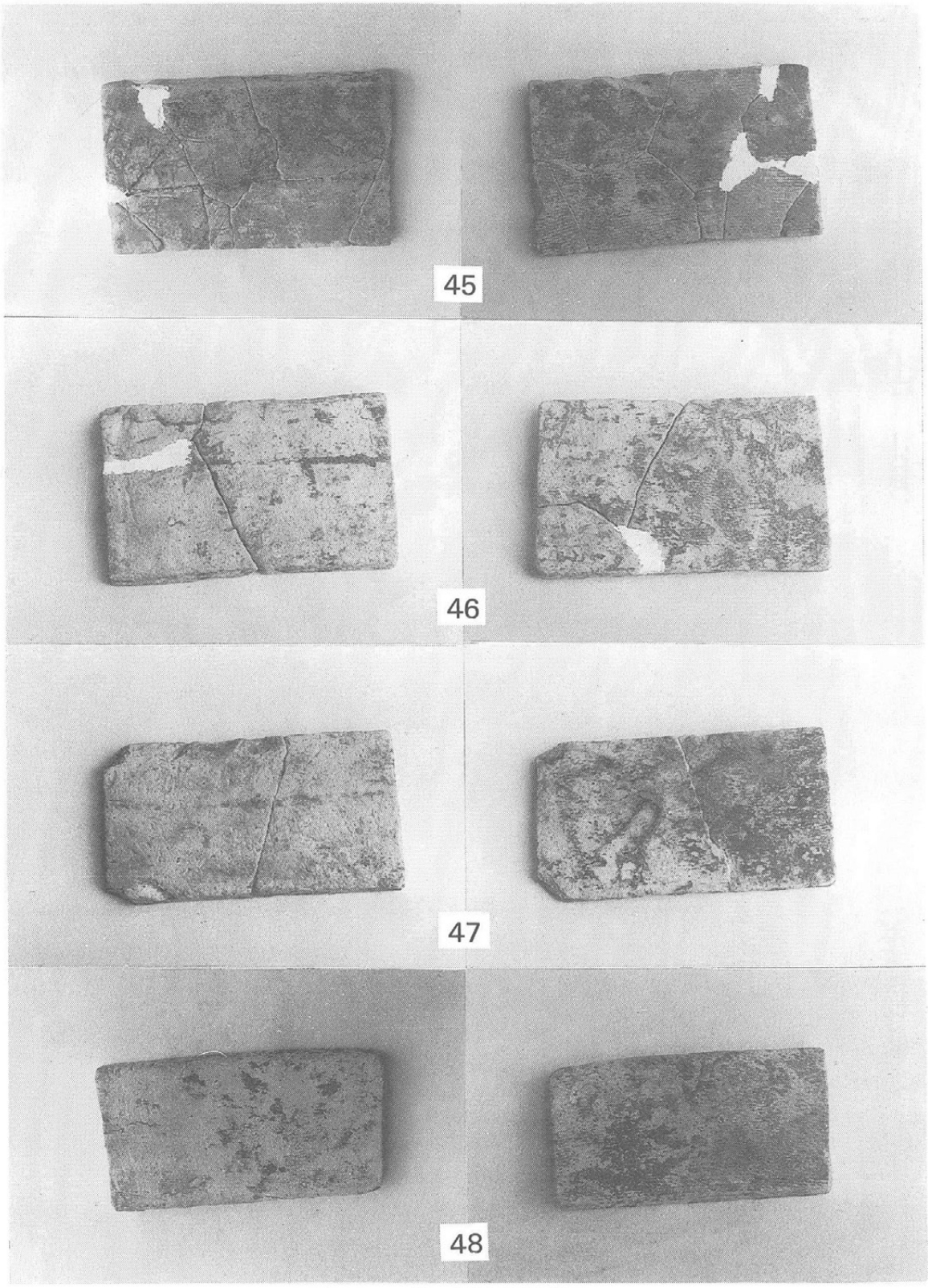




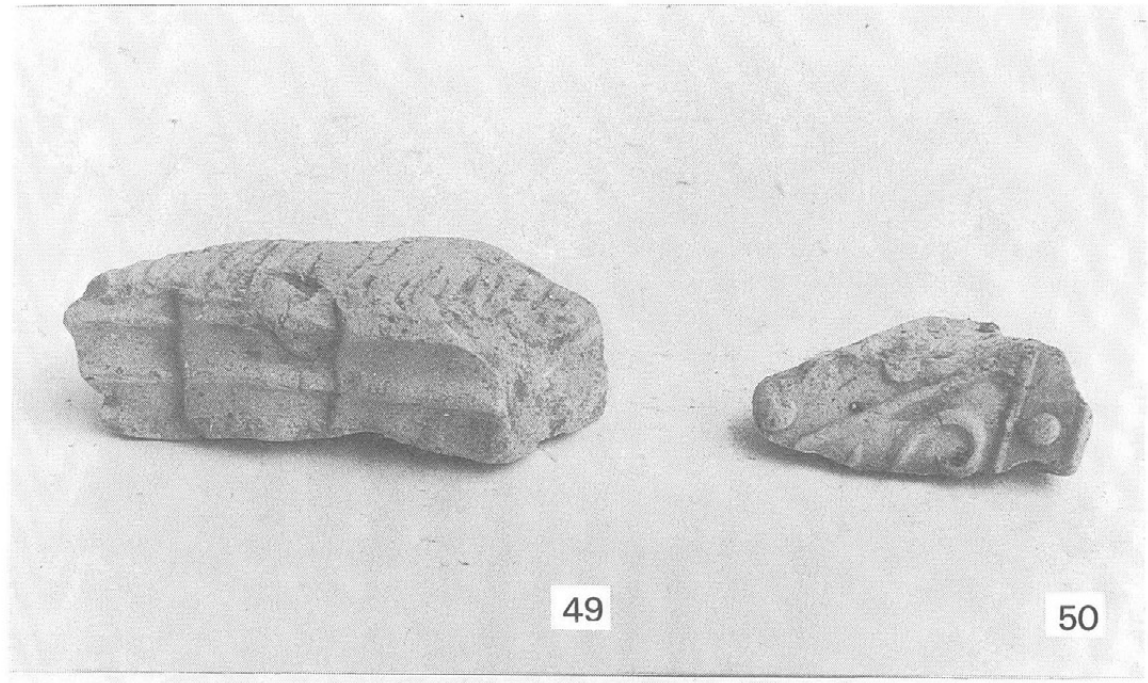
図版19　　38～41 2Ｔ包含層

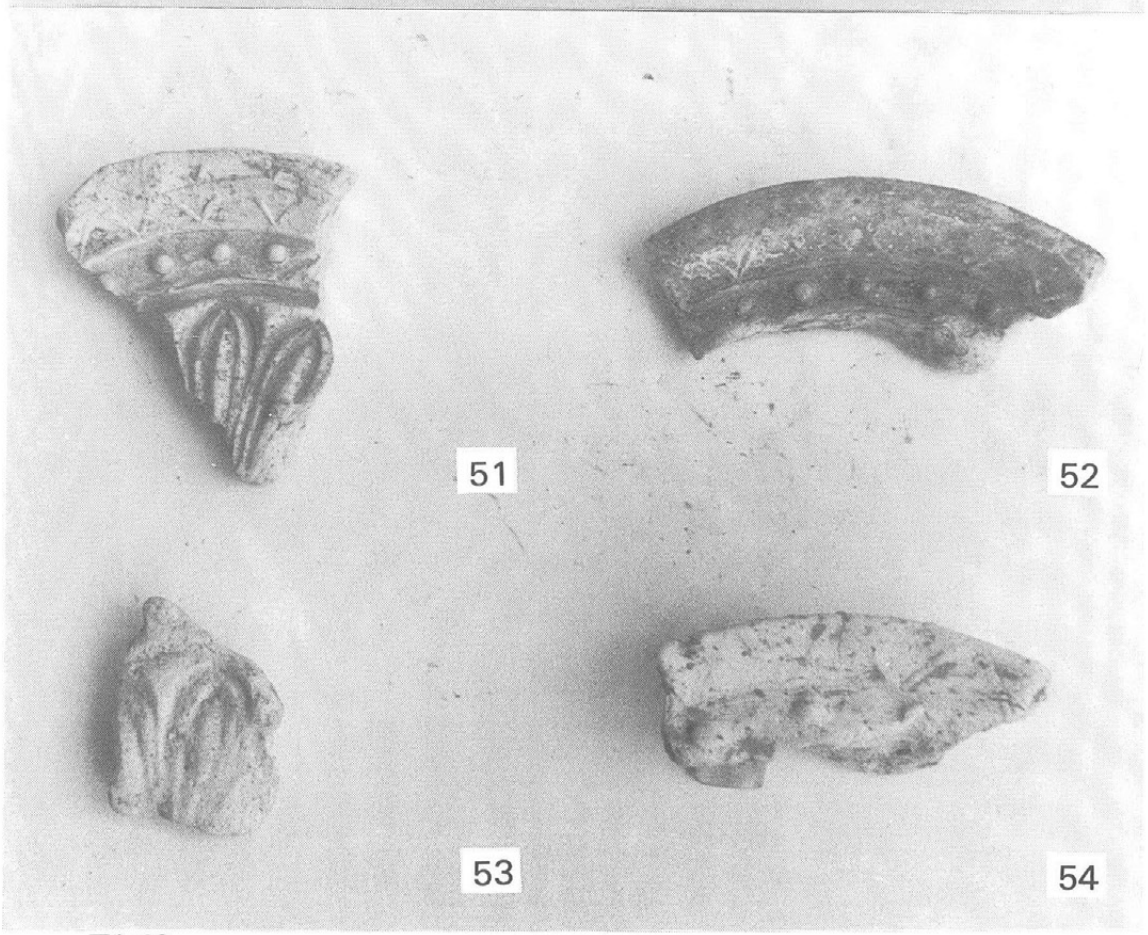


図版20　　42～44 2Ｔ包含層

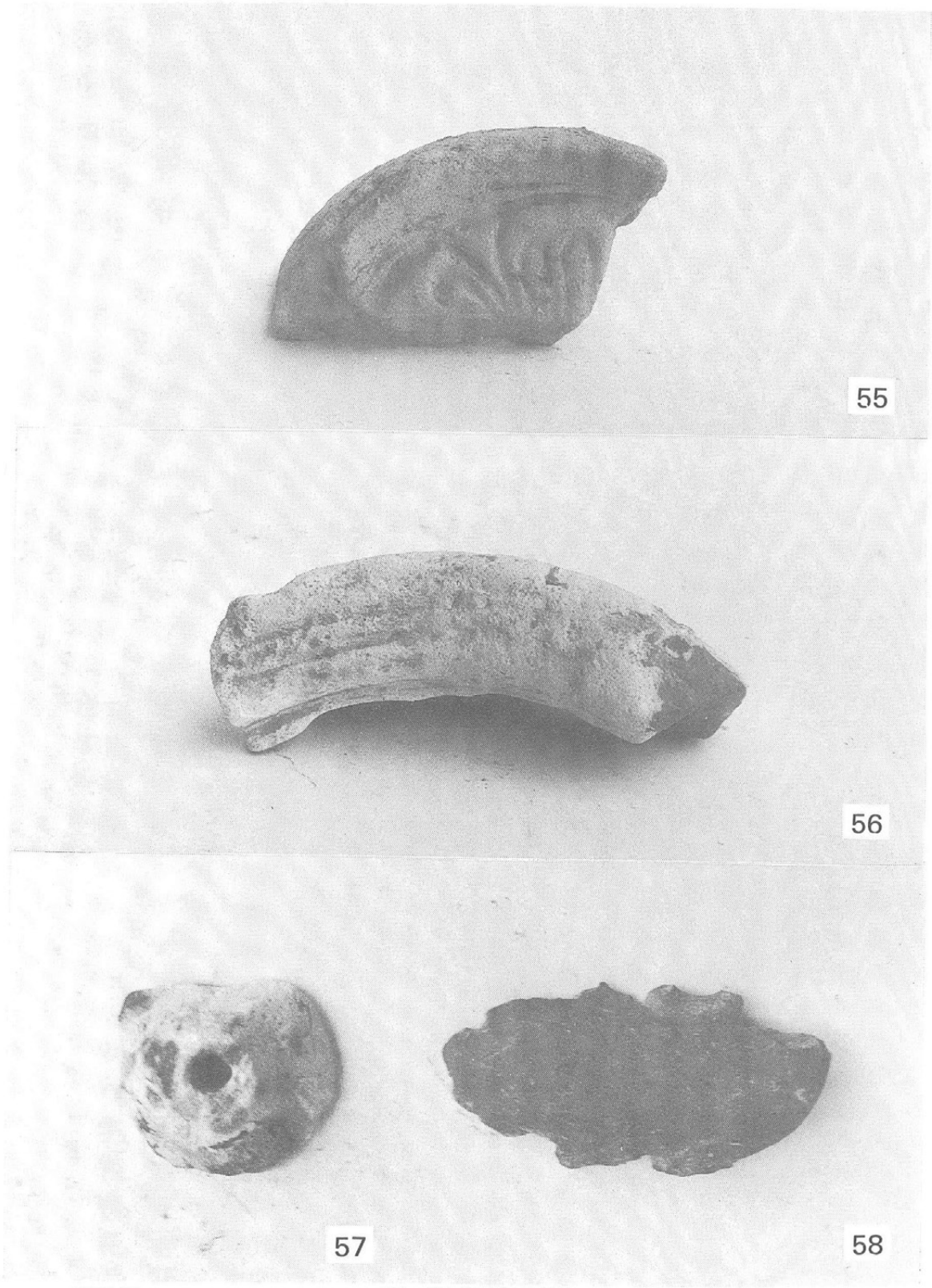


図版21　45～48 2T 包含層





図版22　　49～54 2 T包含層



図版23　　55～58 2Ｔ包含層

彦根市埋蔵文化財調査報告第21集

竹ケ鼻廃寺発掘調査概要報告書

平成3年3月

編　集　　彦根市教育委員会
発　行　　彦根市教育委員会
印　刷　　㈲つくし出版印刷